

# ほほえみ



ともにほほえむ

本多ヨシ 様 今年101歳。車イスの生活ですが、長男さん夫婦と一緒に暮らしておられ、趣味の絵手紙を老人会の作品展に出品したり、ひ孫さんのお祝着の寸法直しなどの手仕事を楽しみながらしておられます。

## 一般社団法人

## 神奈川県介護福祉士会が新出発！

一般社団法人神奈川県介護福祉士会

会長 野上 薫子

新しい公益法人制度が平成十八年六月二日に公布、本年十二月一日に施行されました。本会にとつて法人格の取得は積年の課題であり念願でありましたので、年度当初よりこの日に焦点をあて準備をすすめてきました。お陰様で無事登記を済ませ、十二月一日より「一般社団法人神奈川県介護福祉士会」として活動を開始することが出来ました。この間、本会を暖かく見守り、陰に陽にご支援下さいました皆様にご心より深謝、御礼申し上げます。本会にありがとうございます。会則十九条三項の規定により十一月九日の理事会において臨時総会の開催（日時：十一月二十九日十三時三十分）を正式に決定、十一月十二日開催通知を全会員に送付し、十一月十三日代議員出席依頼状を送付しました。臨時総会の議事である「一般社団法人神



説明する野上会長

奈川県介護福祉士会設立登記完了時に現在の任意団体神奈川県介護福祉士会を解散すること」・「神奈川県介護福祉士会の残余財産及び事業の一切を一般社団法人神奈川県介護福祉士会に無償譲渡すること」・「一般社団法人神奈川県介護福祉士会の定款」が出席代議員の賛成多数で可決承認されました。

本年は当会設立（平成五年十月二十六日）十五周年に当たる大事な節目の年です。介護の質の向上を図るため、根拠法である「社会福祉士及び介護福祉士法」（昭和六十二年制定）も二十年目の昨年末改正され、新しい理念の下、新しい介護福祉士像を掲げてスタートしました。明年度から新カリキュラムで介護福祉士の養成が始まります。一方、介護現場が人手不足で悲鳴をあげている中、介護について理解と認識を深め、利用者、家族、介護従事者を支え、介護に関し、国民への啓発を重点的に実施するための日として「介護の日」（十一月十一日）も制定されました。明年度の介護報酬の引き上げも介護従事者の給与引き上げになるよう、その仕組みが検討されています。介護問題が社会の脚光を浴びれば浴びる程、介護福祉の専門職としての介護福祉士の責務は重くなります。法人格取得を喜ぶと共に、法人格を持つ職能団体としてのその責任の重さを再確認し、ともどもに前進致しましょう。会員の皆様、良い新年をお迎え下さい。明年も宜しくお願い致します。

十一月十一日「介護の日」

### 制定記念イベント開催

平成二十年十一月十一日(火)  
於 神奈川県社会福祉会館

十一月十一日(いい日いい日)が本年から新たに「介護の日」に制定され、神奈川県社会福祉協議会・神奈川県介護福祉士会・神奈川県三者共催による記念イベントが実施されました。

午前十時三十分より神奈川県立保健福祉大学名誉学長・阿部志郎先生の「介護のみらい」と題した記念講演が行われ、午後は急ごしらえの高座をしつらえて介護落語が行われました。ヘルパー二級の資格を持ち介護の仕事にもかかわらずおられる林家源平さん(故林家三平門下・真打)の「五人介護」は利用者様に関する落語で、笑いを誘われました。その後、関係機関による「福祉のしごと」相談会が行われ、多数の一般の方々の参加もあり盛会でした。

阿部先生のお話の中で、「介護は、される人・する人が、生きる喜びと明日への希望を見出すこと



であり、それが介護の原点である」とのことに、心を新たにいたしました。この日はNHK・朝日新聞社などの取材もあり、介護の今後に一縷の望みを感じさせられた一日でした。

(副会長 三ヶ島靖子)

## いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう

- ◆介護の日制定記念セミナー  
テーマ 「介護のみらい」  
講師 阿部志郎氏 (保健福祉大学名誉学長)
- ◆介護落語 林家源平氏 (故林家 三平門下、真打)  
テーマ 「五人介護」
- ◆その他のイベント
  - ☆チャレンジ! 介護体験
  - ☆介護職員を必要としている施設って? そればどんな施設? どこにあるの?
  - ☆介護のプロになるにはどんな資格がいるの? 資格をとるには?
  - ☆ひとりで抱えこまないで! ~介護相談~
  - ☆一緒に歩こう! ~権利擁護・成年後見人相談~

神奈川県社会福祉協議会、神奈川県介護福祉士会、  
神奈川県の三者共催で開催

## “11月11日介護の日” 趣旨

高齢化などにより介護が必要な方々が増加している一方、介護にまつわる課題は多様化しています。こうした中、多くの方々に介護を身近なものとしてとらえていただくとともに、それぞれの立場で介護を考え、関わっていただくことが必要となっています。

介護についての理解と認識を深め、介護サービス利用者及びその家族、介護従事者等を支援するとともに、これらの人たちを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施する日を設定することとしました。

厚生労働省

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/seikatsuhogo/kaigo-day/index.html> 参照

記念講演

「介護のみらい」

講師 阿部志郎氏

神奈川県立保健福祉大学名誉学長

人は「若い」を迎えると体力、気力を失っていく。その「若い」に「希望を与える」のが介護、すなわちケアである。喪失現象を温かく支え「絶望を希望へ」と変換する事をマザーテレサは行ってきた。

日本は家族が介護することになっていて、担い手は妻・嫁・娘・息子の順番になっている。「やさしい嫁が鬼になる」との川柳があるが、ヨーロッパでは嫁は登場しない。いわゆるスーパの冷めない距離に住んでいて、娘や息子も成年になると別居する。現在日本の同居率は50%でヨーロッパは3%である。

年々介護の負担が重く年金は低くなり、「老人は死んでください国のため」という川柳も生まれているが、かつてわが国では、老人は労働力を持たない役立たずということで、口減らしのため捨てられた。今でも各地に姥捨てという

地名が残っている。

昔、ある小さな国の王様が隣の国から「象の目方を測れ」という難問を吹っ掛けられた。出来ない国をとられてしまう。王様は困り果て最後に老人に相談すると、老人は「象を船に乗せて喫水線を測り、象を降ろして代わりに同じ量の線まで石を乗せてその石の目方を測れば良い」と知恵を授けてくれたので、戦争は避けられた。また二頭の馬の話がある。「二頭の馬のどちらが親で、どちらが子供かを見分けるには」の問題には、二頭の馬の間に餌を置けばわかる。先に餌を食べた方が子供である。なぜなら親は子供が餌を食べないと自分から先に食べることはない」この話は日本にも外国にもある。

韓国は目上の人が座らないと、若い人は座らない「長幼の序」の精神が残っている。

老人には知恵・技能(知識・経験)がある。語り部としての年寄りの役割、時代を継承する役割、年寄りでなければ語れない役割がある。例えば「貧乏と豊かさ」・「戦争と平和」・「戦争の責任」・「敬老と棄老」などなど。現実の社会は常に敬老と棄老の葛藤の日々でも

ある。

平均寿命が延び、来年は男性が八十歳、女性が八十六歳になり、百歳以上が三千四百名を超えた。しかし、健康寿命との差は男性1.4年、女性2.7年でケアの必要な期間が長くなってきている。

核家族化が進み、平均2.4人、四百万世帯が独り暮らしである。一人ぼっち↓孤立は社会的責任である。



「人間は孤独に耐えても、孤立には耐えられない。」が、日本では孤独と存在感を喪失している高齢者が多く、老人は無用(役割がない)との考えがある。

なぜ、ケアをするのか。それはその人を愛しているから。愛とは理解し信頼すること。そして、いたわりあい、喜びもかなしみも共にすること。ケアは辛い、嫌な仕事です。にもかかわらず、責任と使命感を感じてケアをする人がいます。「艱難汝を玉にす」のことわざ通り、自分自身が高められ、希望が生まれます。自分自身が深められ新しい自分自身を見出す事ができます。

ホスピスの語源は寒い日に自分の上着を脱いで寒い人に着せること。介護する人、される人、共に生きる明日への希望と喜びを分かち合えますように。

(要旨 副会長 平野浩子)



社団法人日本介護福祉士会 第十五回全国大会開催

「魅力ある介護福祉士」

〜時代が求める介護福祉士を目指して〜

平成二〇年九月二十日(土)〜二十一日(日)

伊香保温泉 「ホテル 天坊」

介護の現場は少子高齢化・安い賃金・厳しい勤務体制等により、人材不足という厳しい状況に直面しています。全国大会では、時代が求める介護福祉士を目指して、講演・分科会・シンポジウム等で熱い討論が繰り広げられました。

神奈川県介護福祉士会の会員も三十五人参加しました。ほとんどの方が貸切バスに同乗して、温泉旅行気分です。研修に参加しました。しかし、2日間の研修を通して、刺激され種々の気づきがあり、厳しい状況の今こそ私たち介護福祉士が生活支援のプロとして専門性を発揮し、社会的認知をあげるように立ち上がる時だと実感しました。帰りのバスの中では、参加した一人ひとりが研修の成果や感想を発表しました。日頃の介護を見直すための自己研鑽の必要性を感じると共に、他県の仲間のエネルギーから得たものが多かったようです。

分科会では、実践の中で利用者の尊厳を保持し、自立を支援している事例が発表されました。高齢者・障害者等の行動や発言の意味を考察し、何を根拠に介護を行っているかが説明できることが介護福祉士としての専門性にも繋がる事に気づきました。

記念講演では「介助犬『レオ』と歩む私」の東条忠興氏と『レオ』との信頼関係が、東条氏と社会との結びつきを深くしてくれたのだと思います。介護の実践の中で高齢者等の思いを受け止め、介護職との信頼関係の中で利用者自ら一步一步踏み出す事が出来るのです。

会員の皆さん、是非各種研修に参加してください。自ら積極的に前向きに、仲間と一緒に自己研鑽して、魅力ある介護福祉士を目指しましょう。

(副会長 炭竈美枝)

《分科会》

第一分科会

「認知症高齢者への自立支援①」

座長 森 繁樹氏

「結びの杜ホーム」・「三世交代センターよしい川」・「旭川荘

研修センター」所長

・「認知症高齢者への自立支援」

〜節子さんに支えられて〜

・「忘れられない二日間」

・「認知症高齢者への自立支援」

〜小規模多機能型

居宅介護の実践より〜

感想

「介護度が重い利用者さんになにも出来ないと思ひ込み自立支援を阻害してしまつた事例」「亡くなる2日前に始めて心の声を聞いたこと、これまで何を聴いていたのかと葛藤した事例」「小規模多機能施設のシステム運用の仕方と利用者さんとの関わり」の三事例発表であった。奇しくも同じような書き方で、内容としては介護福祉士としてどう云う視点で関わったのか、また、内容を発表形式に纏める技法が勉強不足との辛口の講評が座長の森先生からあった。このことは、介護福祉士として発表

をしたりする機会が少ないからではないだろうかと反省した。  
(副会長平野浩子)

「認知症高齢者への自立支援②」

座長 宮島 渡氏

「アザレアンさなだ」施設長

・「安心できる居場所づくりを目指して」

・「認知症の人の心地よい居場所作り。はじめの一步」

・「認知症高齢者が必要としている自立支援とは？」

〜人を支援するほど私は大きな器ではないけれども、今のレールを共有する仲間として

は楽しいかも〜



第二分科会

「在宅生活(高齢者・障害者)

への自立支援」

座長 奥西 栄介氏

「神戸学院大学」

総合リハビリテーション学部  
准教授

・「経口摂取をきっかけに生活意欲を取り戻したA氏へのとりくみ」

・「脳出血右肩麻痺発症後8年が経過しても通所介護での運動器機能向上の効果が認められる」

・「介護予防通所サービスタウンを呈する特定高齢者の運動器機能とともにQOLを維持・向上する可能性がある」

第三分科会

「福祉・介護現場の人材育成」

座長 是枝 祥子氏

「大妻女子大学」

人間関係学部教授

・「目標管理制度の運用実績から「施設介護職職能等級要件基準書」を作り上げた取り組み」

・「心豊かな介護福祉士をめざして」

「音楽や造形をとおしてコミュニケーション手段の拡大を図ることから」

・「育てる現場を育てるために」「介護職のスキルアップを目指す」

「基礎介護技術ビデオ製作に取り組む」

・「遠い国スウェーデンから見た日本の現実」

「福祉先進国の北欧研修より、日本の現状や福祉従事者の労働条件を知り、安定した人材の確保につなげる」

感想

私が参加した第三分科会の発表は五事例あったが、その中で印象が強く残った事例は「介護職スキルアップを目指す」と「育てる現場を育てるために」であった。

まず「介護職スキルアップを目指す」では、会合時間の設定は時間外に行う事とし、対価を支払うことで対応していた。その中で、基礎介護技術をビデオ撮影して標準化し、新人職員研修時の実践資料とすることで、施設介護職員全体のスキルアップを図っていた。

今回のビデオ作製では、介護職員

自らがテーマ内容の設定を行い、取り組んだことから、介護職員のモチベーションが高まり、質の良い介護ビデオが完成した。これにより職員ひとりひとりが自信を持った介護業務を行っている。

二つ目は「育てる現場を育てるために」であるが、このレポートは介護職員の離職を低減するためには、どのような介護方針が必要なのかということから発生したと思われる。介護における幅広い年齢層を小グループ化し、階層的に「チーム到達目標」を自由な発想で設定し、「介護ラダー評価表」として策定するとともに自己評価を行い、自己解決能力の向上を図っていた。(用語説明 ラダー：はし) 小グループ内の各ポジションの介護技術力が向上することで、全体の現場スタツプが育ち、それぞれのポジションに対する「やりがい」と「魅力的な職場」となるように努力されていた。

以上により、この二事例は今後介護職のあり方について、ひとつの提言となるのではないかと思いました。

(会員 中谷英二)

介助犬ミニ知識



「介助犬を拒むのは、車椅子に乗るなというのと同じ」  
「介助犬を拒むのは、メガネをかけるなというのと同じ」

「身体障害者補助犬法」 2003年10月1日施行

「身体障害者補助犬とは目や耳、肢体の不自由な人のために働く盲導犬・聴導犬及び介助犬をいう」  
「介助犬」とは、肢体不自由により日常生活に著しい支障がある身体障害者のために、物の拾い上げ及び運搬、着脱衣の補助、体位の変更、起立及び歩行の支持、扉の開閉、スイッチの操作、緊急の場合における救助の要請その多の肢体不自由を補う補助を行う犬であって法の認定をうけているものをいう

## 介護福祉士の 全国総決起集会 開催される

社団法人日本介護福祉士会は、去る九月二十九日(月)東京都港区メルパルクホールで、

『介護福祉士は訴える』

これでいいのか

日本の介護保険

〜介護現場から

『介護保険は崩壊する』

をテーマに決起集会を開催。日本全国北海道から九州・沖縄までの介護福祉士約千人が集結、神奈川県からは雨の中五十六人がかけつけました。

同集会は、介護労働者を守るために、関係者が一堂に会し、現在の介護現場の実状を訴え、その声を国会に直接届ける事を目的に開催されました。中でも介護労働への低評価・高離職率・人材不足等が深刻で、このままでは国民の介護を担う体制が、崩壊してしまうと危惧されているからです。来年度、介護報酬が見直される事から今のこの時期に国民運動として機



運を高める必要性がありました。第一部では介護現場からの実状報告に続いて、各政党の代表が応援メッセージを力強く述べられました。第二部のシンポジウムでは樋口恵子氏や沖藤典子氏らが熱く語り合いました。最後に参加者全員が一斉に立ち上がり、強い意志を示す『声明文』を読み上げ、閉会となりました。

(理事 中嶋春子)

## 下半期事業を終えて

### 地域部会

#### 横浜地区

「キネステティック研修初級編」を受講して

会員 中里上子

自分の中で研修に行つてなんとなく終つて帰ってくるというのがマンネリ化してしまつて、研修に対して興味が遠のいていました。そんなときに下西先生の講義に出会えて、仕事への意欲も変わりました。

先生の講義の中で、「接触はコミュニケーション」 “浮いた所は軽いですよ” “経験した動きはできる” “自分の身体の圧をわからなければ相手の身体もわからない” “気持ちいい、楽、という動き” “その時の状況によつて相手の反応は変わってくる” “あまりに自然な動きに、これは学習していかなきやと思ひました。

時間が経つのが早く、次回パート2をして頂けることを心よりお願いいたします。

#### 県西地区 「地区研修を終えて」

担当理事 袴田はる江

平成二十年九月二十七日(土) 国際医療福祉大学小田原校ADL室リハビリ室をお借りし「楽に動かしましょう・楽に動きましょう」と題し研修を行いました。会員十三名が参加し、理学療法士の昇寛先生の指導の下、基本的な移乗移動などの実技を行いました。基本を理解した上でその人に合わせた介助をすることの大切さを再認識しました。その後、校舎内の見学をさせていただきました。

### 介護支援専門員部会

「第一回介護支援専門員研修」

担当理事 梅田 滋

平成二十年八月十六日「日本介護福祉士会アクセスメント様式(ver.1)」を使用したのケアプラン作成研修を行いました。参加者の感想の一部をご紹介します。

・少人数だったので、講師の方々と話すことができましたし「生活7領域からのアクセスメント」の仕方は分かりました。なかなかケアプランには繋がら

なかつたのですが、まだ新人のため繰り返し作ることが勉強だと感じています。

・解決すべき課題（ニーズ）を抽出するまでの方法は難しかったが説明はよくわかりました。

・説明等わかり易く、グループの人とも気持が通じあえたのでよかった。質問などもしやすく、固く成らずにすみホットしてあります。

・今まで漠然としていたアセスメントが少しわかり、とてもよかった。

・昨年度も生活7領域の研修を受けました。前回、分類の理解がなかなかできず苦労しましたが、今回分類の考え方やシートの使い方が自分なりに理解できたので、大変よかったです。

・介護福祉士会方式は書込みが多いので大変ですが、考え方が理解でき、自然にニーズが導きだされ、繰り返しやるのが大切だと感じました。

・施設のケアプランと在宅におけるケアプランとの間での立て方では、ケアプランの立て方が違い、考えさせられました。

## 研究会

第三者評価研究会

担当理事 田口久美子

介護サービスの質の向上を目的として、各評価機関により福祉サービス第三者評価事業が行われています。神奈川県介護福祉士会、神奈川県社会福祉協議会（県社協）が独自に開発した評価項目を使わせて頂き、第三者評価機関を設立することになっています。

それに伴い第三者評価研究会を設け、会員の中から募集し、七名の研究会員により八月二十八日第一回の研究会を開催しました。評価機関の設立決定に至る経緯、設立に向けての今後の予定、研究会員の今後の活動について話し合いました。九月二十九日の第二回の研究会では、県社協版評価項目の特徴について勉強しました。今後も月一回の研究会を開催し、評価機関設立に向けて活動をしていく予定です。会員の中で、第三者評価事業に関心のある方はぜひご参加ください。できれば調査員の資格をお持ちの方歓迎いたします。

ケアマネジメント研究会

担当理事 浦野直子

施設の介護支援専門員が入所者のために作成する「施設サービス計画書」のあり方についての研究会が本年度、新たに発足しました。研究会に集う仲間は合計八名。全員が課題意識をもって臨んでいるところです。八月末の初顔合わせから十月にかけて計二回の検討会を行ないました。

「人は、施設に入所していろいろが在宅であろうがその人らしく生きていくべき」です。どこに住んでいてもその人の生活に対する価値観は継続されるべきであり、誰もが願うことです。これを絵空事ではなく確実に実行するために、どのような施設プランが望ましいのか、仕組みが必要なのか。介護支援専門員は「利用者の生活をトータルでみる」ことが必要です。そして、その施設にいる各専門職はプランに基づいて役割を果たすことが期待されます。そういうケアプラン”を”目指して、ただいま研究中です。

介護技術研究会

担当理事 斎藤美貴

介護技術講習の指導者で構成されている研究会の事業としては、新たに県内各地へ「介護技術の基本」を普及する出前研修会を定期的に開催しております。研修生からは「このような介護方法は知らなかつた、どこへ行ったらまた研修できるか」との声が多く寄せられています。効果的な人材育成のためには、日常の職場の中で、日常の業務を遂行しながら、仕事に必要な知識・技能・技術・態度を計画的にレベルアップしていくことが求められますが、介護現場では、人手不足で遠方への研修に出かける時間がとりにくい実状があります。ぜひ次回開催の機会に参加して頂ければと思います。

各地区の方達には会場交渉や、研修生募集等で今後も大変お世話になります。



全国一斉介護相談

湘南東地区

湘南東地区ブロックでは、今年も、九月二十八日(日)に「藤沢市民まつり」に参加して、全国一斉介護相談を実施いたしました。会場は、JR藤沢駅のコンコース内。当日は天候にも恵まれ、多くの市民の方が会場を訪れ、人、人の波でした。

相談に立ち止まる人は、その中のほんの一握りの人ですが、通行するほとんどの人が、「全国一斉介護相談(神奈川県介護福祉士会)」「なんでも介護相談(介護福祉士会湘南東地区ブロック)」のポスターを目にしてくれていませぬ。賑やかなお祭りの中では、本当に地味なブースですが、「継続こそ力」と毎年、参加しております。今年も二十名近くの方の相談があり、その他、地域の福祉関係のパンフレットを持ち帰る人も多くいて、それなりに成果があったと捉えております。相談員として活動していただいた地区会員の皆様、お疲れ様でした。

(理事 梅田滋)

相模原地区

九月六日(土)イトーヨーカドー古淵店介護用品売り場の横に会場を設け五名の会員で介護相談を行った。九時三十分の開店と同時にチラシ配りを始めたが、高齢者が比較的多く来店していて快く受け取ってくれた事がうれしかった。午前中は六件の相談があり、内容はオムツをしていることで室内が臭くなり悩んでいる事。遠方の親への贈り物など、相談は様々であったが、皆ホットした表情で相談を受けていた。午後は残暑厳しい日でもあり、相談はなかったが、今後は誰もが気軽に相談できる会場、チラシ作りに力を入れたい。

(理事 阿部良子)

担当地区	件数	担当者
相模原	6人	5人
湘南東	18人	5人
湘南西	平成21年2/8実施予定	



ビデオ貸出します

「ちぎれ雲〜いつか老人介護〜」

11月29日 県介護福祉士会臨時総会にて上映

ひよんなことから高齢化社会の現実と直面することになったOLが、様々な人との交流を通して成長していく姿を描いたヒューマン・ドラマ。この映画は「高齢社会」という状況をしっかりと受け止めて、充実した質の高い生活を構築していくためには何が必要なのか、爽やかなタッチで問題提起している。

主演は、細川直美と田中実。脚本・監督 山口巧。製作 あすなろ映画フィルム・クレセント

厚生省推薦、文部省選定作品。1999年国際高齢者年製作

推薦図書 (推薦者 理事 中嶋春子)

困難に直面されている方々に勇気を伝える珠玉の一冊!!

「湘南リハビリ物語」

著者が勤務する湘南東部総合病院(通称湘南リハビリ病院)を舞台に、患者さん・家族・その友達との一期一会の出会いを“湘南リハビリ物語”として、エッセイ風にまとめられた真実の物語り。交通事故、脳血管障害、終末期の癌患者の方々が著者でもある医師に出会い、リハビリを通じて交流が生まれ、生きる喜びを伝えます。ささくれた今の時代だからこそ是非お勧めしたい“心の栄養”本。特にリハビリノートと題したト書きが逸品。著者=北村純一 定価=本体1000円+税

編集後記

年末のご挨拶を申し上げる時期になりました。会員の皆様には益々ご健勝で活躍の事と存じます。さて、今回の会報は当会が一般社団法人格を取得した事や「介護の日制定記念」行事など一歩前に踏み出すきっかけになる記事内容でお届けします。原稿依頼にご協力下さった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

(平野・中嶋・星)



ほほえみ 三十号

発行 一般社団法人

神奈川県介護福祉士会

会長 野上 薫子

横浜市神奈川区沢渡四一二

県社会福祉会館内

電話045(311)8776

FAX045(317)5930

E-mail: info@kanagawa-accw.org

印刷 有限会社 金港堂

電話045(322)0234